

< 農業生産条件の強化（自己施工）に取り組む事例 >

交付金を活用し農道整備する取組

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	山口県宇部市・白椎の木			
協定面積 4.1ha	田（100%）	畑（%）	草地（%）	採草放牧地（%）
	水 稻			
交 付 金 額 74 万円	個人配分			0%
	共同取組活動 （100%）	役員報酬		14%
		農地維持管理費		40%
		水路・農道維持管理費		20%
		体制整備に向けた活動費等		20%
	事務費等		6%	
協定参加者	農業者6人			

2. 取組に至る経緯

本集落の抱える課題は、農業に従事している戸数が6戸と少数の集落であること、担い手の大部分が高齢者で、後継者がいないことである。また、有害鳥獣による被害も多く、水路・農道等が老朽化していることも問題である。

そのため、平成14年度に中山間地域等直接支払制度（第1期対策）に取り組み、猪被害対策として防護柵（トタン張り）布設を開始した。平成17年度からの第2期対策においても、その維持管理及び水路の整備に取り組み、平成22年度からの第3期対策では、農道・堰の整備に加え、耕作や維持管理が困難な農用地管理を共同で行い、機械・農作業の共同化を推進し、集落ぐるみの農作業活動の体制構築を追加目標に取り組んでいる。

3. 取組の内容

農道の補修については、交付金から生コンの購入・作業日役を支出し、型枠作り・生コン布設等は集落の共同作業で行い、堰の補修においても同様の方法で行った。

また、鳥獣被害対策の防護柵の点検・補修、水路・農道周りの管理・草刈及び耕作や維持管理が困難な農用地の共同作業を行っている。

今後は、集落内で共同作業（農機具の共同使用を含む）を行っていく体制を構築していくことを検討している。



【集落話し合い】



【共同農道整備】

[集落の将来像]

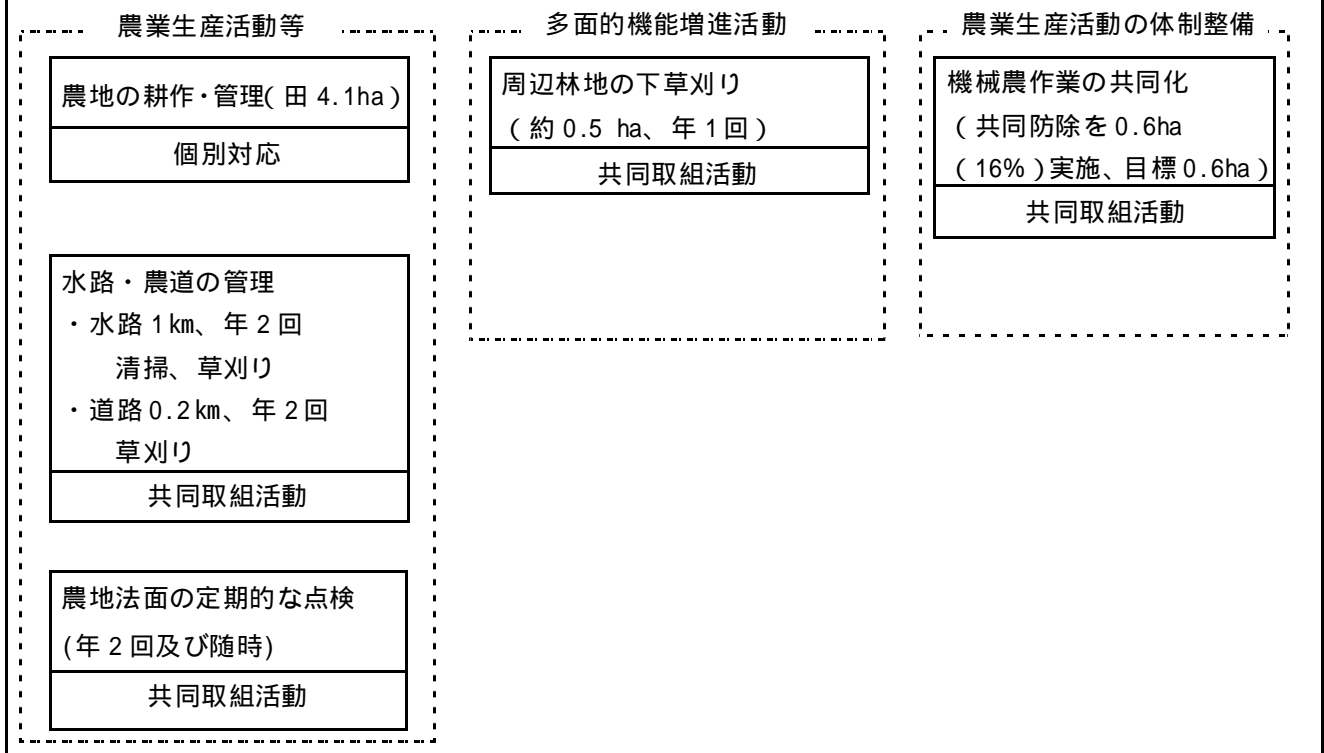
現在、各農家により農用地の耕作等を行っているが、今後（10～15年後）高齢化や後継者不足により、耕作や維持管理が困難な農用地が発生するような場合は、核となる担い手に対し、利用権設定等で農地を集積することにより、集落内で農業生産活動等を継続できる体制を整備する。



[将来像を実現するための活動目標]

交付金を共同取組活動へ100%配分し、耕作や適切な農用地の維持管理をすることにより耕作放棄を防止し、共同作業により農道・水路等の整備をする。また、水路・農道の管理作業及び周辺林地の下草刈り作業を共同実施することにより、集落内で農業生産活動等を継続できる体制を整備する。

[活動内容]



4. 今後の課題等

有害鳥獣被害対策（トタン張り）、水路・農道の補修等、個人ではコスト・労力面で今まで出来なかったことが、共同で実施出来たことは有意義であった。また、多くの作業を共同で行うことによって、共同作業を増やしていこうという意識が高まった。

今後の課題としては、高齢化や後継者不足がますます進行する中、機械・農作業の共同化及び集落ぐるみの営農活動体制を強化していくことである。

[第 2 期対策の主な成果]

有害鳥獣被害対策（トタン張り）の点検・補修（1.5ha）
農道の補修（50m）農道周りの草刈（0.2km）
水路補修、パイプ布設（1km）水路周りの草刈（1km）
休耕田の草刈・耕耘・道造り（2箇所）